

庄内BIMセンター設立へ

庄内町先端的建築 設計拠点化事業 ブレレンススタッフ(鶴岡)が受託

建築設計のブレレンススタッフ(本社・鶴岡市桜新町、仲川昌夫社長)は、庄内町の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき先端的建築設計拠点化事業を受託した。同町余日の町新産業創造館クラッセ内のオフィス棟に「庄内BIMセンター」を設立し、建造物などの総合的管理システムの「BIM」を扱える人材を育成するとともに、雇用の場を創出。将来的には中央の大手ゼネコンなどから受注できるシステムの構築を図る。

人材育成と雇用の場創出

BIMは、「Building Information modeling」称。建物の設計や構造計算(ビルディングインフォメーションモデリング)の略。一定、施工計画、コストなども含めて総合的に管理するだけではなく建築部材の選択、コンピュータシステムとして

て現在、急速に普及が進んでいる。

同様のコンピュータシステムのCAD(Computer Aided Design)が、主に3次元の形状情報のみを扱うものであるのに対し、建物に関するさまざまな情報を全て一元的に管理すること、建設業務全体の効率化、建築家や施工業者、施工主の意思共有を図ることができる。

庄内町は、内閣府の「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業」に関連して「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を10月末までに策定。この中に盛り込まれた先端的建築設計拠点化事業(先行型)をブレレンススタッフが業務委託された形となる。同事業は、安定した雇用と収入が期待できる「しごと」と、高度な知識と技術を有する「ひと」づくりを目標に、BIMの拠点化を図り業務の受注、人材育成の体制構築に取り組みもの。

同社によると、設計拠点を設けることで地域活性化、地域の人づくり、地域雇用の拡大を目指すとともに、高度な技術、知識を有する人材の育成により、地域の人材レベル向上、UIJT(イン)を希望する求職者、新卒雇用、地域転職希望者の受け皿を拡大し、人口流出に歯止めをかける効果も見込むという。

現在、同社はBIMセンターの具体的な計画を策定中で、既に中央の大手ゼネコンへ人材を派遣し、指導者育成に取り掛かっている。本年度末まで3人の指導者を育成し、2016年度中に20人の新規雇用を目指す。2018年度末まで計43人の新規雇用を計画しているという。同社は「BIMは受注の受け皿がまだ少ない。大手ゼネコンからの仕事を、庄内町を拠点とする企業が受けることで全国のBIM設計の拠点となれば、優れた技術者の育成は技術と知識の継承にもつながると期待できる」、庄内町商工観光課は「国の交付金で人材育成関連の人件費、機材調達など資金面でバックアップを町がする。雇用創出に加え人口減に歯止めがかかり、地域活性化につながるれば」とそれぞれ話した。